

演題番号 24	転倒・転落事故に繋がらないナースコールを減らす取り組み
発表者	公立世羅中央病院 主任看護師 保永 和範
共同発表者	影山 のり子, 金光谷 清美, 貞縄 知恵子, 吉口 智子

高齢者の転倒は、骨折などの外傷の危険だけでなく、活動量が低下するなど生活の質を低下させる要因の一つになっている。以前は転倒予防として4本柵の使用、クリップ式離床センサーが主であったが、現在はベッドセンサーの使用が主となっている。転倒予防のためのベッドセンサーの使用基準がなく個々の判断で設定していた。そのため、過度のセンサー設定によりナースコールの回数が多く、必要なナースコールの対応に遅れてしまうことがあった。センサーの特徴把握と患者のADLの状況を含めた設定基準が必要と感じ、ベッドセンサー設定基準フローチャートを作成して活用することで転倒・転落事故に繋がらないナースコールを減らすことができた。

MEMO
